

平成 22 年度

高松市立一宮小学校自己評価

	評価項目	評価（4段階）	自己評価結果と改善方策等	学校関係者評価結果および意見等
1	信頼される学校に関すること (開かれた学校, 教職員の資質向上等)	3	学校教育目標に向けて子どもを見つめ、目標に向けて今後も粘り強く指導を継続していく。学年・学級の目標の項目から見直していく。 児童の安全面などを保護者にサポータとして依頼したり、地域の人材を積極的に取り入れたりしたい。ホームページの積極的な更新ができるようになった。 現職教育ではテーマを精選し、児童にとって必要なものに絞り込んでいく。	学校がそれぞれの分野で努力していることはよく分かる。来年度に向けてもよく考えられた計画ができていたので、以下の点にも留意して実践して欲しい。 <人権教育について>
2	確かな学力と主体的な学びを生む場の実現に関すること	2	ドリルタイムやノート指導にも工夫を加えられた。部会を中心として今後も提案するとともに学年団の共通理解を進めていきたい。マイスタディの日も12月から実施し何とか軌道に乗せることができた。基礎資本の定着を図るために今後も大いに利用していきたい。	人権や思い合えるところに具体的な取り組みをたくさんしてほしい。低学年の中で人権に関する発表を聞いた。どんどん実践していくことが必要だと思う。人権意識は高まっていると思う。 <地域防犯について>
3	少人数指導（少人数学級）に関すること	3	保護者や児童の少人数指導についての理解が進み、分かりやすい授業が展開できている。今後、もっと積極的に団だよりや少人数便り、授業参観を通して成果を知らせていきたい。	みんなで防ぐ。親とのふれあいを大切にするのが大事である。不審者も青パトのおかげで少なくなった。声かけ隊も増やしていきたい。
4	道徳教育の充実に関すること	2	道徳の授業については年間計画を基に実施できている。来年度に向けて全体計画に教科や領域との関連内容や時期、家庭・地域との連携方法を示していきたい。子どもの心を耕す掲示物については学習の跡が見られるように学年団や学級で掲示の仕方を更に工夫していきたい。	<特別支援教育について> 特別支援を必要とする児童への教育も大切だが、できるものをもっとのばす教育も大切ではないか。
5	時代の変化に対応した教育に関すること	2	校外に出る場合は、地域人材や保護者ボランティアを活用するなど安全確保に留意していきたい。視聴覚機器が使いこなせていないため十分な指導ができなかった。パソコン教室を学級ごとに振り分け学校全体として利用していきたい。DVDプレーヤーを全教室に配置したい。	<生徒指導について> 個々の指導については、みんなが共通理解をして行い、情報交換
6	学校図書館教育に関すること	2	目標冊数が決まっているので、達成率は上がっている。個人差が大きく、声かけをしないと読書しない。実質の読書量や質について課題がある。読書指導はよく行われているが、心豊かになる読書指導について今後も研究していきたい。 学級文庫を充実し、より読書機会を増やしたい。	
7	自己指導能力を育てる生徒指		基本的な生活習慣が身に付いていない子の割合が多い。学習規律の徹底	

	導に関すること	2	<p>ができにくい。学習のルールを全員が取り組めるとよい。話を聞けない子が多い。廊下歩行ができない。家庭環境が整わず、保護者の協力が得にくい。週目標を守ろうとする意識が低い。個々の意識を高めていくことが大切になる。課題はたくさんあるが、今後も家庭の協力を得られるよう呼び掛けながら、人権・同和教育を基盤にしなければいけないことを洗い出し、全職員が共通理解をして取り組んでいきたい。また、他の学年、クラスの問題を抱える子に管理職、児童支援、空いている先生等複数の教師が関わってくれる。今後も一人で問題を抱えるのではなく、チームとして対応していきたい。</p>	<p>が必要である。メンタル面も関係しているので関係機関との連携が必要である。</p> <p>遅刻して学校に行っている児童をよく目にする。家庭のいろいろな状況からそのようになっている児童もいるが学校がそこまでしなければいけないのかと思う。登下校は本来は保護者の責任ではないか。</p>
8	人権教育に関すること	3	<p>学級タイムを確保するとともに、ふれあい月間、なかよし月間やなかよしタイム以外に昼休みを活用したりして、ふれあいの機会を多く持っている。実践を絵本形式にしてまとめたり、学級会で話し合いを活発に行ったりするなど、具体的実践は効果があった。</p> <p>来年度は人権教育を柱にして教育課程全体の見直しを図る。</p>	<p>校区内に空き家が増えており、子どもが無断で入るなどしている。地域としても気をつけているが子どもにも指導して欲しい。</p>
9	健康・安全教育に関すること	3	<p>モーニングチェックが形骸化しつつあるので、視点を変えて継続して行っていきたい。調査はよく行われていて実態は把握できている。今後は改善に向けて積極的な活動が必要だと思う。</p>	<p>学校内での突然死に関する危機管理をしてほしい。</p> <p><学校,家庭・地域連携について > 学校サポーターとして保護者の協力を求めるのはよい。地域ボランティア等に個別に学校の行事やを知らせる仕組みを他校の連絡システムを参考にして検討してほしい。また、南高との交流は</p>
10	特別支援教育に関すること	3	<p>現職教育を通じて支援・指導の方法について学べたのはよかった。</p> <p>通常の学級に在籍する特別な支援を要する児童への対応は、学年団や全職員の協力体制で進められるよう校内委員会などで検討していく。</p> <p>ADHD、LDなど支援を必要な児童への対応についても研修する機会を増やす。通級指導教室が開設された場合は適切な運用を図り、個別の学習を充実していきたい。</p>	<p>互いのメリットがあるので続けて欲しい。</p>
11	その他（特色ある教育など）	2	<p>学年に応じて子どもの心が育つよう計画を実践していきたい。栽培活動を日常化して心が育つように配慮したい。菊作りも植えるだけでなく、あいさつや礼状の指導をするなど美しく咲いた花を地域との交流に活用したい。</p> <p>ボランティア活動の一環で廊下の花を育てる活動がスタートできた。よりボランティア活動を充実していきたい。</p>	